

受講番号 19048 学校名 高知ろう学校 氏名 上田 亮介

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 中学部2年生 生徒数 1名  
 科目名 英語 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 1

クラスの様子・特徴

聴力120デシベル以上(測定不能)という聞こえのレベルなので、乳児期から言語を中心に耳からの情報が少なく日本語の力が不十分であるが英語学習には興味・関心を示し、積極的に発音・発話しようという姿勢がみられる。長期記憶の定着が課題である。

問題の確定

長期記憶することが苦手な面があり、学習に取り組む姿勢にも変化があるため、自発的、計画的な取り組みができるようになりたい。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
英語についての興味・関心はあり、積極的に授業に取り組むが、あまり復習がなされていない。日本語力の関係もあり、単語の記憶量がなかなか蓄積されにくく、基礎的な事項の定着にも時間がかかる。家庭学習の習慣を確立したい。	英語の授業は楽しい。覚えたことはすぐ使ってみた。単語を覚えてもすぐ忘れることが多い、特に綴りを覚えるのは大変だから、書くのは嫌いだ。ALTの先生と文通してみたい。	中学1年前半の学習内容の定着がまだ不十分である。覚えてもそのまま使わないでいると、やがて忘れてしまうこともある。例えばアルファベットなども一度は全部覚えても期間をおくといくつか書けないという事もある。

リサーチ・クエスト

スムーズなコミュニケーションが困難な中で、英語学習の基礎ともいべき中学1年の学習内容を定着させるためにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

<b>仮説1</b> 短い文をたくさん暗記することで、文法的な説明をあまり必要とせずに自然に基本的な英文の構造が身に付くのではないだろうか。	<b>実践1</b> 既習の単語だけを用いて、当該の学習事項を含んでいる例文を提示し、できるだけそのまま暗唱できるようにする。また身近で親しみやすい事柄も含んだ応用的な例文も提示することで、より理解を深める。	<b>検証1</b> 聴覚障害の生徒の特性の一つとして、長期記憶が難しいという事例が挙げられることが多いが、この実践においてもそのようなケースが見られた。例文提示の後、1回目の記憶はある程度可能だが、一定期間を置いて再び調べてみると多くを忘れていた。基本的には忘れては覚えるというプロセスを反復する以外には良い方法がないが、なかなか向上が見られない。障害による不安定な日本語力に起因する部分も大きいと思われる。
<b>仮説2</b> 新出単語が5〜10語程度まとまるごとに、満点となるまで同一の単語テストを繰り返し行うという方法によって語彙の増加が図れるのではないだろうか。	<b>実践2</b> 授業を通して、まだ記憶できていないと推測される単語について毎週1回、小テストを行う。少なくとも一旦はすべて記憶できるまで同一のテストを満点となるまでくり返す。その後1ヶ月程度を経て、再度同じテストを行い、どの程度忘れていたかを調べ、またすべて記憶するまでくり返す。授業時間が小テストによって削減されないよう、できるだけ放課後を利用する。	<b>検証2</b> 当初予定した程には定期的なテストができなかったが、文の場合と比べると生徒の記憶は早いと感じた。もちろん一度覚えても、時間経過とともにまた忘れていた単語の方が多いが、そのプロセスを繰り返すことによって1ヶ月以上経ても相当数の定着が見られた。しかし時とともに、現在学習中の単語と1ヶ月以上前の単語と2種類のテストが必要となり時間の確保や生徒への負担も多くなってきた。
<b>仮説3</b> 宿題を課すことによって家庭学習の習慣、ひいては自学自習の習慣が少しずつ身に付いていくようになるのではないだろうか。	<b>実践3</b> その日の授業での学習内容に関することに主眼をおいた宿題を毎日課す。聴覚障害の生徒には取り組みの開始に周囲からの働きかけが必要なケースがよく見られるので、寄宿舎や保護者にも援助・協力をお願いする。毎日の宿題となるので、あまり強い負担にはならないように、当初の目安としては30分程度でできるように配慮する。翌日には必ず提出させチェックする。	<b>検証3</b> 自作の問題、或いは市販の問題集等から、その日学習した内容に関する練習問題をほぼ毎日課すことができた。運動会、文化祭等の行事或いは定期試験直前等、平常と比べ多少時間が不足すると思われる日を除いてほとんど毎日の宿題であったが、期間を通して、宿題を済ませるだけで足りりとする傾向が継続した。それでも寄宿舎や自宅で毎日自主的に机に向かう習慣は付きつあるとの報告を受けている。

研究の成果

単語や例文の記憶、そして学習習慣の確立等を目指した今回の実践は特に目新しいものではなく、英語学習においては必要不可欠の事ばかりである。特別にアクション・リサーチということ意識しなくても結果的には同様な目的を持った指導を行っていたことと思われる。しかし今回、仮説、実践、検証と意識しながら行ったことで、より生徒の変化に対する細かい観察の視点が養われたように思える。

今後の授業改善の課題

今回の実践は、新出単語や基本的例文の暗記そして宿題と、どうしても強制的なものばかりで、自分から進んで学習に取り組むような姿勢を確立する指導ではなかった。英語学習の指導を通して自分の最終的に目指すものは、学習者の主体的、意欲的な姿勢が育つことであるので、今後そうした観点からの指導も研究していきたいし、それらの基本となる聴覚障害教育の専門性を高めていこう努めたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 (088)823-1640 電子メール

#REF!